❶ 死亡直後から早期に現れる現象

一般的に死亡から一晩が過ぎると、遺体は冷たい（体温低下）、硬い（硬直）、顔色が蒼白であるなどの様子がうかがえる。冷たいと感じるのは、遺体の体温の降下によるもので、体格や栄養状態などによって差はあるが、通常1時間に約0.5℃～1℃降下するといわれている。やがて体表は遺体が安置された環境の温度まで降下する。

硬いと感じるのは、死後硬直のためである。死後硬直は、体格がよい強壮者では強く発現し、筋肉が衰えている者では弱い。全身に浮腫（むくみ）が強度に発現している患者は、死後硬直はほとんど発現しない。

心臓が停止すると血液の循環が止まる。顔に血色がなく蒼白に見えるようになるのは、毛細血管にあった血液が、次第に身体の低位置へ移動するためである。低位置へ移動した血液が体表から確認できるようになったものを死斑という。仰向けに寝ていた人では、死斑は背部に出現する。体格のよい強壮者の死斑は濃い。

これらの目に見える現象は、早期死体現象といわれるうちの一部である。遺体は一般的にはこのような現象が現れている状態の間に火葬される。

••コラム•• 死後に髭はのびる？

死亡直後に剃ったはずの髭が、次の日には少しのびている。この様子を見て「髭は亡くなった後でものびる」と錯覚してしまうが、死後に髭はのびることはない。皮膚が乾燥して収縮し、皮膚の中に隠れていた毛根が出てきたため、のびたように見えるのである。

••コラム•• 亡くなった後、髭剃りをした。次の日に口の周りやあごに小さな褐色の傷が出てきた。どうして？

髭剃りでできた傷。使い古しのカミソリを使用した場合やからぞりを行った場合に、気が付かないで表皮を剥離することがある。表皮を剥離するとその部位は、時間が経過するうちに乾燥し、革皮様化して傷となって現れる。

••コラム•• 瞼が開いてきた。どうして？

閉じていたはずの瞼が開いてきたのは、皮膚の乾燥による。時間が経過すると瞼の乾燥が進み、次第に開くことがある。死後処置で瞼の内側に脱脂綿を薄く入れるのは、時間経過に伴う眼球の陥没の防止と乾燥による開眼防止のためである。

••コラム•• 顎バンドと死後硬直

死後硬直の強さと発生には個人差がある。口を閉じるために顎バンド又は包帯等を用いることがあるが、口の閉口は顎の筋肉の死後硬直に関係する。長期間咀嚼をしていない場合は、死後硬直は発現しても弱いかあるいはほとんど発現しない。また強度に浮腫が出現している場合も死後硬直はほとんど起こらない。

❷ 腐 敗 現 象

火葬場の混雑などによって日延べを余儀なくされた場合や、死亡場所が風呂場であった場合、水難事故、発見の遅れなどによって思いがけない遺体の変貌を目の当たりにすることがある。

腐敗する過程は、環境が乾燥状態であると、遺体の体表は乾燥し干からびた様子で腐敗する。一般的には腐敗ガスの発生によって、身体は体全体が大きく膨れ上がり、個人の識別が不可能になる。この変貌した様子を巨人にたとえ、巨人様観という。その頃には、体表には腐敗した体液を貯留した腐敗水疱や腐敗網が発現している。その後体は崩壊し、やがて長期間の後白骨化する。

●腐敗抑制の重要性

腐敗した遺体の表皮はもろく、少しの摩擦で容易に剥離する。表皮が剥離すると、剥離した部位から体液が浸出する。腐敗が進行すると体内で発生したガスで膨張した遺体は、鼻腔から出血したり、口腔から血液の飛沫を吹き上げることがある。

激しい腐敗現象が出現した遺体に接する際は、血液・体液・排泄物等と曝露する危険性を伴い感染リスクが高い。遺体を移動するときや納棺時には血液・体液・排泄物等からの接触感染に注意して携わることが必要である。

遺体の腐敗は、おもに細菌やカビ等の微生物の繁殖による。微生物などは遺体を栄養源として、その姿が消失するまで繁殖し続ける。ドライアイスや遺体保存用冷蔵庫を利用するのは、遺体の体温を下げることによって、細菌等の微生物の繁殖を抑制し、腐敗の進行を遅らせることが目的である。

葬祭業従事者が行う遺体の管理は、腐敗を抑制し、その後に及ぶ激しい腐敗状況をできるだけ招かないために重要である。

POINT ⇨ 激しい腐敗現象が出現していると、感染リスクが高い。

POINT ⇨ 腐敗を抑制する目的
- 遺体の人としての尊厳
- 遺体に携わる従事者の感染を少なくする。